

事業名	学校給食推進費	財務コード (事業)	165003
-----	---------	---------------	--------

細事業名	学校給食大会費
------	---------

担当部課室	教育委員会 部 スポーツ健康 課 保健給食 担当 (内線)	8425
-------	-------------------------------	------

事業の概要

実施期間	始期 S59 年度 ~ 終期 年度						
実施主体	県(直営)						
事業の目的	<table border="1"> <tr> <td>誰(何)を対象に</td> <td>その対象をどのような状態にして</td> <td>結果、何に結びつけるのか</td> </tr> <tr> <td>学校給食の実施に関し、食育や衛生管理に優れた等優秀な成果を挙げた学校及び学校給食共同調理場(学校給食センター)、並びに特に功績のあった学校給食関係者及び学校給食関係団体等</td> <td>学校給食に対する意識が向上している。</td> <td>学校給食の更なる充実</td> </tr> </table>	誰(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか	学校給食の実施に関し、食育や衛生管理に優れた等優秀な成果を挙げた学校及び学校給食共同調理場(学校給食センター)、並びに特に功績のあった学校給食関係者及び学校給食関係団体等	学校給食に対する意識が向上している。	学校給食の更なる充実
誰(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか					
学校給食の実施に関し、食育や衛生管理に優れた等優秀な成果を挙げた学校及び学校給食共同調理場(学校給食センター)、並びに特に功績のあった学校給食関係者及び学校給食関係団体等	学校給食に対する意識が向上している。	学校給食の更なる充実					
事業の内容 主に 24年度	学校給食優良校、学校給食優良共同調理場、学校給食功労者(個人・団体)の表彰選考(11月) 学校給食大会(12月):(公財)山梨県学校給食会と共催 給食優良校 1校 給食功労者 8人 記念講演「暮らしの中の食育」講師 東日本料理学校協会理事 斉藤洋子氏						
根拠法令等	山梨県学校給食優良学校等表彰要項						

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	23年度	24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 大会参加者数	428人	450	490人	450	450	活動指標 目標設定の考え方 単独調理場 186 協同調理場 210 特別支援 18 定時制 8 私学 4 国立 5 優良校等表彰者 19 データの出典等 参加者名簿
	活動指標達成率 (実績値/目標値)	108.9 %				
成果指標 受賞者(団体)数	11人(校)	11人(校)	9人(校)	10人(校)	10人(校)	成果指標 目標設定の考え方 過去3年間の実績に基づき、受賞者(団体)数を目標とする。 データの出典等 受賞者名簿
	成果指標達成率 (実績値/目標値)	81.8 %				
決算額、予算額 (千円) うち一財額	30		38	79	81	成果指標によらない成果 学校給食の実施に関し、優秀な成果をあげた学校等を表彰することにより、関係者の意識の向上を図り、さらなる地産地消や食育による学校給食の充実と推進につながる。
所要時間(直接分)	59 時間		59 時間	59 時間	59 時間	
所要時間(間接分)	0 時間		0 時間	0 時間	0 時間	
所要時間計	59 時間		59 時間	59 時間	59 時間	
人件費1st 単位:千円 (@2,050円×所要時間)	121		121	121	121	

これまでの事業の見直し・改善状況

H23 会場使用料について、共催の(公財)山梨県学校給食会が負担することとした
---

**活動量と成果の判断(平成24年度の業績評価)**

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方	数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
H24年度活動指標達成率			
b	b		

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方	必ず記入すること
H24年度成果指標達成率			学校の統廃合や共同調理場への移行など、表彰者(団体)の数は若干減少しているが、多くの学校給食関係者が参加する大会において表彰を行うことで、関係者の意識向上が図られている。これにより、衛生管理の徹底や地産地消、食育推進など、学校給食の充実に寄与しており、意図した成果をあげている。
b	b		

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

**見直しの必要性(平成26年度に向けた改善等の考え方)**

一次評価(担当部評価結果)		
見直しの必要性	説明	以外の判断項目
無		

・「以外の判断項目」の欄  
 必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施) 官の役割分担(g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

**二次評価(担当部局再評価結果)** 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

**見直しの方向(平成26年度当初予算等での対応状況)**

見直しの方向	具体的な実施計画等
現行どおり	

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。